



QPA会通信 ≪No.84≫ 2024年 第3号

2024年5月31日 一般社団法人公園管理運営士会発行

1 【徒然公園記】 都立木場公園における地域連携

山崎 照展 ((公財) 東京都公園協会 都立木場公園長)

QPA 会通信No.82 の冒頭のご挨拶で「近年の公園では、公園を中心とした周辺の地域、住民、企業、団体等様々なステークホルダー（関係者）との連携・協働による地域づくり、まちづくりが求められている」との記載がある。また、東京都が2024年3月に公開したパークマネジメントマスタープランでは、公園に関わる多様な主体が参加する「パークミーティング」を全公園で開催することを記載している。



このような状況の中で、木場公園では『地域と協働して「地域の価値を高める」こと』を目的として、2020年7月に第一回エリアマネジメント協議会（以降、「エリマネ会議」と言う。）を開催した。

当時はコロナ禍の始まりで広く声掛けをすることが難しい状況でもあり、ボランティアなど園内で活動される団体を中心とした33名の方とオンラインも含めて会議をした。その後、何回か会議を重ね、翌年度にはエリマネ会議で目指す地域の姿を「自然と都市が調和した住み続けられる街」とした。

<地域特性から生まれた「こどものにわ」>

過去の木場公園とその周辺は貯木場であり、その後に木材関係の商業地となった。そのため、近隣には庭のある住宅が少なく、近年は高層マンションも増えているため、住民の緑・自然に対するニーズが高い地域である。

このような地域特性があるなかでエリマネ会議の当初メンバーの中に、自然とふれあい遊ぶ体験を企画運営するNPOが参加していた。保育園など保育に関係する団体の賛同を得て、自然や土と触れ合える遊び場を作る計画が立ち上がった。園地の利用に関する計画のため東京都へ説明を行いながら、2022年4月に「こどものにわ」をオープンした。



子供たちが夢になるドロ遊びイベント

現在は登録団体によるドロ遊びのほか、個人利用の解放日を設けている。イベントとして「たねダンゴ」で播種を行った後、開花期に花摘みを行うなど、多くの地域の方に自然に親しんでいただいている。

<地域の価値を高めるイベント>

もう一つ、エリマネ会議から派生した事業として、地域連携イベント「KIBA FESTA」を実施している。このイベントは地域の価値を高めることを目的として、木場の伝統を伝える団体や近隣の企業などが集まり、地域の良さを楽しく伝えている。

全団体がエリマネ会議に参加しているわけではないが、「KIBA FESTA」をきっかけにエリマネ会議に参加している団体もある。2021年に第一回を開催し、当初は8団体参加で来場者数も約1,300人と小規模であったが、2023年開催時には、15団体が参加し来場者も2日間で約9,500人と規模が拡大している。

<地域連携を進めるにあたり>

地域連携を推進するためには、各団体の行いたいこと・できることがエリマネ会議の目的と合致していることが重要である。そのため、現在の会議では皆様の意見を公園が一つずつ精査し、次の会議でフィードバックしている。このように、検討結果を細かく示すことで、各団体が関与できる事項が明確になり、議論が深化していく。

最後に、私が気を付けているのは「遠い目標を定めブレない」こと。木場公園のロードマップは、2050年までを長期計画として、ローリングしながら進めています。地域連携は街づくりにも関係してくるので、長い目で考えてはいかがでしょうか。

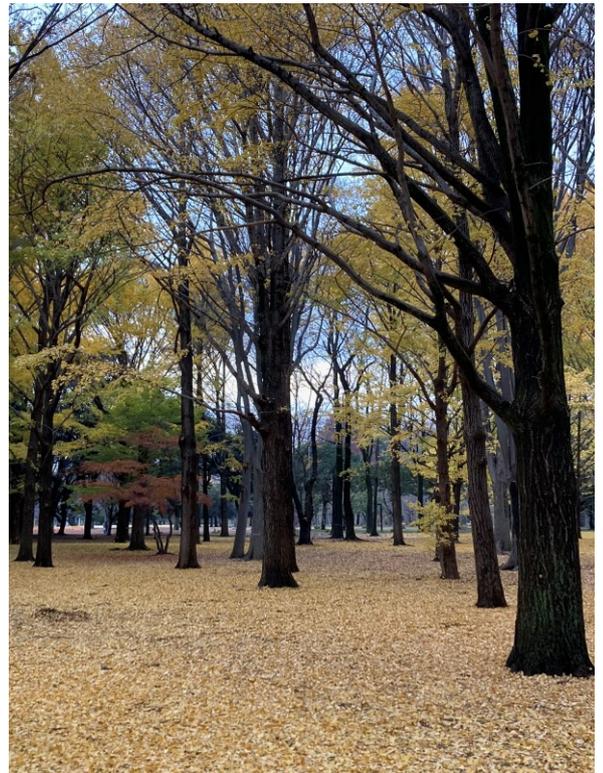
2【会員の声】公園の木々が蓄積する「時」の価値

中沢 恵美子（(公財) 東京都公園協会）

私事ながら、今年、59歳になった。昭和63年に東京都公園協会に入社。新人研修で見学したのが、建設中の葛西臨海水族園の工事現場だった。その葛西臨海水族園がリニューアル工事に入るという。設備の更新なども必要なのだろうが、建築物の寿命というのは案外短いものだったと思った。その一方で、ここ何年か、桜の季節に葛西臨海公園に行って隔世の感を感じるの、大きく育ったソメイヨシノの下に敷物を広げてお花見を楽しんでいる人たちを見かけることである。私が葛西臨海公園に在席していたころは、ソメイヨシノはほんの若木で、他の公園がお花見対応でてんでこ舞いしている時期に「うちの公園は花見の名所じゃないからね～」とのんびり過ごしていたものである。そのソメイヨシノが立派に成長し、木の下で人がくつろげるほどに大きくなったということに、樹木のもつ素晴らしさを改めて実感した。

樹木は時間をかけて成長する。緑のボリュームが増し、公園の風景を変えていく。いわば、公園に時を蓄積していくのである。何をわかりきったことを、と思われるかもしれない。しかし、2022年11月に、公園管理運営士会東日本支部のセミナーで、稲毛海浜公園を見学させていただいた時に、公園の再整備案を検討する中で、当初、海沿いの松林を伐採する計画があったと聞いて本当に驚いた。この伐採計画は幸い撤回されたが、成長した松林は、稲毛海浜公園に蓄積された「時」であり、カネでは買えない価値があると『誰もが考えるはず』と思っていた自分の甘さを突き付けられた。

幸い、世の人々は蓄積された時の価値に気づき始めている。古い建物を簡単に壊してしまわず、新しい用途に合うように作りかえるリノベーションがブームである。そして、リノベーションされた古い建物に人々は魅力を感じている。建物の場合、長い年月を重ねる間、住人が大事に使ってきたというぬくもりのようなものが、人々を惹きつけるのだろう。しかし、公園の樹木が蓄積してきた時の価値は、すぐには実感してもらえないものなのかもしれない。例えば、成長したはいいが、うっそうと茂りすぎて暗くなった常緑樹の林。これをうまく間伐し、木々の下で子供たちが遊んだり、大人が散歩したりできる空間にする。広場に点在する高木があれば、シンボルツリーとして親しんでもらえるよう、イベントなどで人々と樹木を結び付ける演出をする。そんな風に多くの人々に、公園の木々が蓄積してきた「時」の価値を感じてもらおうこと。それも、これからの樹木管理に求められる視点なのではないだろうか。写真は、昨年12月に撮影した代々木公園のイチョウの林である。この美しい林は、落ち葉をまき散らすのに夢中な子供たちや、敷き詰められた黄葉を楽しむ人たちであふれていた。この人たちはイチョウが蓄積してきた「時」を楽しんでいたとも言える。公園管理の中で、公園の開園当時を振り返ったり、公園の未来の姿を思い描くことで、蓄積された時の価値をしっかり把握し、人々に還元する。それもこれからの公園管理運営士の役割ではないだろうか。



代々木公園のイチョウ林

3【オススメ公園】八幡屋公園（大阪市港区）

沖 健一（一般財団法人 大阪スポーツみどり財団）

大阪市港区にある「八幡屋公園」を紹介します。

八幡屋公園は、1923年4月に誕生しました。園内に建設された「大阪市立運動場」は、同年開催の「第6回極東オリンピック大会」会場とするため、日本初の50m競泳用プールや5万人収容可能な陸上競技場などを備えており、当時としては最新鋭の大規模な運動公園として、数多くの国内・国際試合が行われてきました。



終戦後の1956年には国際見本市会場として、さらに1972年には交通公園として再整備され、その後、1997年「なみはや国体」開催決定を受けて大阪プールと中央体育館の建設が決まり、現在の総合公園としてリニューアルされました。

園内には、世界的にもめずらしい半地下構造で最大1万人を収容できる「大阪市中央体育館」、外観が銀白色のドーム型で冬はアイススケート場にもなる「大阪プール」、ふたつの施設に囲まれた中央部には広々とした芝生広場があります。また、港区の人気施設である海遊館のジンベイザメをモチーフにした遊具も設置されており、スポーツを楽しむだけでなく、自然や遊びを満喫する場所としても人気です。



ジンベイザメ遊具

中央体育館の上部は、20mの小高い丘となっており、グリーンヒルズの愛称で親しまれ、港区をはじめ360度一望できるスポットとなっています。頂上までの園路沿いには、青紫色の花弁が特徴で世界三大花木のひとつである「ジャカランダ」が植えられており、初夏の開花



グリーンヒルズ(小高い丘)



ジャカランダ

時期には、市内外から多くの来園者が訪れます。大変人気の高い植物であるため、八幡屋公園では毎年植樹を拡大し、現在では植栽本数100本を超え、新しいジャカランダの名所となるよう取り組んでいます。その他、園内にはサクラやイチヨウなどの並木、港区の花であるヒマワリ、皇帝ひまわりをはじめ、ナノハナ、スイセンなど、四季折々の花々が来園者を楽しませてくれます。

都会にある自然豊かな公園なので、子どもたちの自然学習体験の場としても大いに活用されています。芝生広場での「自然観察会」「水遊びしチャオ」、グリーンヒルズ頂上での「星空観察会」「凧揚げ大会」、園内花壇を活用した「小学校卒業記念花壇づくり」など、子どもたちが豊かな心を育めるよう、地元団体や近隣学校などと連携しながら、さまざまな取り組みを行っています。



小学校卒業記念花壇づくり



凧揚げ大会

コロナ禍が収まった2022年からは、公園の駅前広場を地域交流の拠点場所「八幡屋クロススクエア」として、地域の人々が主体となって、様々なにぎわいイベントも開催し、地域の賑わい創出につながっています。音楽やフリマ、子ども縁日、キッチンカーなど、親子で楽しめる「KOKOマルシェ」、地元密着のお店やクラフト体験、ハンドメイド雑貨など、子育て世代が交流できる「グリーンマーケット」、飼い主と愛犬・愛猫と一緒に楽しむ、マナー啓発を兼ねた「犬猫マナーアップまるしえ」など、多彩なイベントを開催し、人と人が集い交流できる拠点場所として、地域の人々に愛される公園になっています。



グリーンマーケット



犬猫マナーアップまるしえ

ぜひ一度来園いただければ幸いです。

4 関係団体からのお知らせ

■2024年度「公園管理運営士」更新登録のお知らせ

(一社) 日本公園緑地協会 公園管理運営士認定試験事務局

2024年度の更新登録は、2019（平成31/令和元）年度に新規で資格を取得された方および更新登録をされた方が対象です。公園管理運営士の登録証の有効期限が、2025年3月31日までの方となります。更新登録のご案内は、更新対象者全員に6月中旬までに送付しますので、ご案内に沿って更新登録の手続きをしてください。

◆更新講習実施日、講習会場

2024年10月17日（木） オンライン

2024年10月18日（金） オンライン

2024年11月19日（火） 東京会場

2024年11月27日（水） 大阪会場

【問合せ先】 公園管理運営士認定試験事務局（(一社) 日本公園緑地協会内）

TEL: 03-5833-8551 FAX: 03-5833-8553 E-mail: qpa@posa.or.jp

■令和6年度講習会「地域課題解決のためのPark-PFI事例を学ぶ」開催について

(一社) 日本公園緑地協会

本講習は、「物流事業者の2024年問題」、「生涯活躍のまちづくり(CCRC)」、「地域住民からの古屋敷跡地の要望」、「賑わい拠点の創出」など地域が抱える課題の解決や地域活性化・地方創生を実現のために、小規模な公園緑地において公募設置管理制度 Park-PFI を活用している実施事例を紹介することで、実務におけるノウハウ習得や対応能力向上を図ることを目的として開催します。

【主催】：一般社団法人 日本公園緑地協会

【共催】：ランドスケープ経営研究会（LBA）（予定）

一般社団法人 公園管理運営士会（予定）

公園緑地公民連携研究会（予定）

【参加対象】

- (1) 公募設置管理制度に関わる地方公共団体職員の実務担当者
- (2) 公園緑地関係団体職員
- (3) 公募設置管理制度に参画している、または参画を希望する民間事業者

【開催日および開催場所】

開催日：令和6年7月25日（木）13:00-17:00

開催方法：対面+オンライン（1週間のアーカイブ配信あり ※質疑応答部分はカット）

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1階 102室

【募集定員】 会場 150名（先着順） オンラインは制限なし

【参加費会場・オンライン共通（税込）】 会員（当協会会員、共催団体会員）：11,000円

非会員（上記会員以外の参加者）：22,000円

【参加申込】 右の申込フォームからお申込み可能です。<https://tayori.com/f/24park-pfi-chiikikadaikaketsu/>

詳細は右記HPをご覧ください。<https://www.posa.or.jp/summary/summary05/>

【問合せ先】 (一社) 日本公園緑地協会 担当：本野（もとの）、金成（かなり）

〒101-0043 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル2階

TEL:03-5833-8551（代表） FAX:03-5833-8553 E-mail:kousyu2@posa.or.jp

5 公園管理運営士会からのお知らせ

■令和6年度 公園管理運営士会 中部支部講演会

日 時：令和6年6月25日（火） 14：30～16：40

場 所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）9階903会議室（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

主 催：（一社）公園管理運営士会中部支部

内 容：①講演会 「人前で上がらず話せる方法」

公園管理運営での挨拶やイベント時に緊張してしまう要因とその克服法

講師：鳥谷 朝代 氏 （社）あがり症克服協会代表理事 （株）スピーチ塾代表取締役

①事例発表 「国営木曾三川公園 138 タワーパーク『バイオネストの取り組み』」

講師：柴田 雅子 氏 （一財）公園財団木曾三川公園管理センター

②事例発表 「名古屋市農業センター dera farm 管理運営について」

講師：ホームメックス株式会社 富田 均 氏

③事例発表 「第42回全国都市緑化ぎふフェアについて」令和7年4月23日から6月15日開催

講師：岐阜県都市公園課 都市緑化フェア推進室長 棚橋 幸治 氏

問合せ：（一社）公園管理運営士会中部支部 事務局 寺本正保

TEL:052-851-7161 FAX:052-851-7169 E-mail:kouen.chubu.jimukyoku@iwama-z.co.jp

締 切：令和6年6月18日（火）

■（一社）公園管理運営士会九州・沖縄支部

2024年度講演会のご案内

九州・沖縄支部では宮崎県が掲げる「スポーツランドみやぎき」のフットボール拠点施設をテーマとして講演会を開催します。

フットボールの拠点「トレーニングセンター宮崎」は、ラグビー、サッカー、陸上競技等の国内外のトップアスリート等の合宿拠点であるとともに、県内アスリートの競技力向上や、キャンプ誘致による観光の振興・経済の活性化を目的として整備され、今年度の前半はラグビー日本代表のキャンプ地として利用されています。

テーマ：「（仮称）トップアスリート合宿施設の管理・運営」～in スポーツランドみやぎき

日 時：令和6年8月2日（金） 14：00～17：00

場 所：宮崎県屋外型トレーニングセンター「アミノバイタル トレーニングセンター宮崎」

問合せ：一般社団法人公園管理運営士会 九州・沖縄支部 携帯 090-8668-7862

※詳細は決まり次第、（一社）公園管理運営士会ホームページに掲載します。

連絡先など変更時の事務局へのご連絡のお願い

QPA 会通信をはじめ、会員の方々へのご連絡は原則 E-mailで行っています。E-mailをはじめ、所属先の住所などに変更があった場合、忘れずに事務局までご連絡ください。

一般社団法人公園管理運営士会 事務局

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-3-7 近江会館ビル 8階

TEL:03-3527-3542 FAX:03-3527-3543 E-mail: info@qpajp.com URL: http://qpajp.com